

日工販ニュース Vol.23 No.02



もくじ

巻 頭 言 「日本の立ち位置」	日工販理事 上田 良樹	2
平成23年 日工販賀詞交歓会		4
トピックス 「わが国工作機械産業の需給実績と見通し」		7
話題の技術 「需要が高まる中・大物部品加工用フロア形横中ぐり盤」	三菱重工業(株) 境 弘明	12
営業マン日記 「『回数券』事件簿の巻」「『車掌の気転』の巻」	さかい三十郎	15
リレー随筆 「チームワーク」	ユアサ商事(株) 横田 直也	18
工作機械と私	(株) 不二 青池真一郎	19
私の読書評 「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」	首都圏リース(株) 宮里 正司	20
議 事 録 「理事会」「西部地区新春時局講演会」		21
甘 口 辛 口	(株)三機商会 池田 剛伯	29
統 計 資 料 「FA流通動態調査1・2」「工作機械業種別受注額」 「平成22年 小型工作機械受注高統計」		30
S E 教 育 「合格者」		33
消 息 ・ 行 事		34
会 員 会 社		36

日本の立ち位置



日工販理事

上田良樹

(三菱商事テクノス(株) 取締役社長)

昨年6月末に三菱商事テクノスの社長を拝命し、日工販の理事に就任させていただいてから半年が過ぎました。この間、市場環境の大きな変化、新しい経済潮流のうねりといったものをひしひしと感じて参りました。我々が置かれている立ち位置が、根本的に変わったと思います。

去年は、リーマン・ショック以降停滞していた景気が、各国による数々の経済対策効果もあり回復基調に戻りましたが、その実態は新興国やアジア地域での力強い成長によって支えられたものであったと思います。(社)日本工作機械工業会が年初に5,500～6,500億円と予測された年間受注額も、新興国等の旺盛な設備需要に牽引される形で約9,800億円と前年の2倍以上の伸張となりました。7割が外需であり、内6割がアジア、更はその7割が中国という状況です。この構図は今後も変わらない、それどころか益々新興国、アジア地域の存在感が増していくものと考えます。残念ながら内需は依然厳しい状況が続いています。日本単体の市場規模という意味ではかつてのレベルには戻らない、そのように覚悟すべきではないかと思えます。



市場の座標軸は明らかに変わりましたが、悲観する必要はないと思います。日本の生命線は「ものづくり」にあります。日本は課題先進国であり、世界が直面する課題をどこよりも早く解決して行くところに、日本が生きて行く道があると思います。世界に先駆けて、非常に高度で精緻な製品を生み出してきた実例は枚挙に遑がありません。市場の中心が変わっても、世界のものづくりに、高機能、高付加価値の日本の工作機械、産業機械は益々必要とされていくものと確信します。

また、お膝元のアジアは、世界最大の成長ポテンシャルを抱えた地域です。歴史的にも日本と繋がりが深く、日本のお客様が移管された生産拠点多くあり、ものづくりの視点からは、日本に中国、東南アジア、インドを含めた一体市場として捉えていくべきものと考えます。日本で培われた「ものづくり」の技術・知見を進化させ、アジアのものづくりに貢献して行くことが、我々に託された使命であり、我々自身の飛躍にも繋がると考えます。今年には日本の真価が問われる年になると思います。我々商社が有する、横断的なネットワーク、情報力が一層必要とされるでしょう。日工販の会員各社が叡智を集結し、連携を密にして、日本のものづくりの進化、成長、発展に寄与していくことが重要であると考えます。

若干宣伝になりますが、弊社は本年の7月で創立40周年を迎えます。1971年に「三菱商事工作機械」として発足し2001年に「三菱商事テクノス」と改名しましたが、この間、日本のものづくりの最前線で、お客様と共に仕事をさせていただきました。これは何にも換えがたい強みであると考えます。このDNAを大切に、世界のものづくりに貢献して行きたいと思えます。今後とも宜しくお願い致します。

平成23年 日工販賀詞交歓会



日工販の平成23年賀詞交歓会が例年通り八重洲富士屋ホテル「櫻の間」において1月7日（金）12時30分より1時間半にわたり盛大に催されました。

当日は好天に恵まれ、関係官庁、関係団体、報道関係から多数ご来駕いただき、245名（正会員84名、メーカー96名、リース27名、来賓他38名）と大盛況でした。

会は宇佐美専務理事の司会で始まり、長久保会長の新年の挨拶に引き続き経済産業省製造産業局産業機械課長 藤木俊光様並びに(株)日本工作機械工業会会長 中村健一様よりご挨拶を賜りました。続いて日本工作機械輸入協会会長 千葉雄三様のご発声により一同乾杯をし、賀詞交歓が繰り広げられました。

宴たけなわの中、後藤副会長の一本締めによる中締めがあり散会となりました。

ご多忙中にも拘わらず出席を賜りました経済産業省 藤木課長をはじめご来賓の方々、会員各位にあらためてお礼申し上げますとともに、本年のご活躍をお祈り申し上げます。（事務局）

会長挨拶 長久保 敏

あけましておめでとうございます。

昨年はお陰様で40周年を迎えることが出来ました。しかしながら我々を取り巻く環境は大きく変化しており、まさにターニングポイントを迎えていると思われまます。外需に牽引され回復基調にあります。内需は未だ足踏み状態が続いております。また最大の顧客であります自動車産業の国内自動車生産台数も回復までには時間がかかると思われ、電気自動車の発表が相次ぐ中今後の動向にも注目しなければならず、経済産



業省で昨年まとめられた「産業構造ビジョン2011」では、これまでの自動車中心から戦略の転換が迫られると思われます。また、発展途上国の社会生活・経済活動は予想を超えるスピードで進展しており、アジアが一大経済圏となり様々な経済活動の進展で環境が急速に変化しており迅速な対応・変化をしっかりと見定めなければなりません。このような時にこそ機動性と柔軟性に富み広範囲な情報を最大限に活用できる我々商社の活躍の場が到来すると考えられ、生産現場の生の声を素早く取り入れ、ユーザー・メーカー・商社が一体となって突き進まなくてはならず、日工販と致しまして、より一層有意義な活動を行なうべく努力してまいります。

ご臨席の皆様のご発展とご多幸・ご健勝をご祈念申し上げます。

来賓挨拶

経済産業省製造産業局産業機械課長 藤木 俊光 氏

景気は、リーマン・ショックから相当程度回復しておりますが、なかなか思うに任せず、足元の円高もでございます。先行き少子高齢化という問題もございますし、アジア各国の台頭という中で日本のポジションがいかにあるべきかいろいろ難しい見方があります。そうした中で我々は今年、更に来年へ新たな前向きな一歩をどうしてもやっていかなければならない決意しております。昨年私ども「産業構造ビジョン2011」を取りまとめ、



新たな成長のため今我国がなすべきことは何か、課題

制定の基に数々の施策を取りまとめたところでございます。これを一個一個実現していくのが今年の経済産業省の大きな課題であろうと思っております。また、日本の強み、ものづくり現場の強みを我々はもう一度再認識しなければと思っており、日本でものをつくることが世界で一番効率が良く、世界で一番良い製品がつけられることを実現していかなければならないと思っております。そのためには本日ここにお集まりの皆様方、工作機械あるいはその販売に携わられる皆様のお力添えなくしてはできません。日本の産業の生産プロセスの大いなる革新を図っていき、力強い日本の産業基盤をつくっていきたいと思っております。皆様と協力し合いながら着実に一歩前に出て勢いをつけてさらに前に出る、そういったスタートの年にしたいと思っております。是非よろしくお願い申し上げます。

本日お集まりの皆様方の今年1年の益々のご活躍そしてご健勝を心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(社)日本工作機械工業会会長 中村 健一 氏

昨年は6,500億円と1月に予測をしたわけでありましたが、夏には8,500億円と上方修正となり、12月度はまだ速報値が出ておりませんが、おそらく9,500億円強になるのではと思われます。6,500億円から見ると予想以上に伸びたわけでありまして。今年経済調査委員会の調査によりまして、今年の予測値は1兆1,000億円としており、円高の重し等を含んでも予測を1兆1,000億円とします。円高のため我々工作機械メーカーは利幅が随分減って利益率は悪化し悩みとしてありますが、ただ売上数値は依然として伸びてい

く年であることには間違いありません。これから日本のお客様が世界（特にアジア）に進出する中で、これからのアフターサービス等いろいろな展開の仕方が変わると思われますので我々が共にどうやって生きていくか、我々メーカー、日工販の皆様にとっても大きな課題であり、日工販の皆様方と是非とも知恵を出しあって、新しい形の日本の技術を活かした展開を皆様と共に図っていきたいと思っております。本年は兎年でもありますから是非とも飛躍の年にしたいという思いです。

是非皆様共々良い年になりますことを心からご祈念申し上げます。



乾杯

日本工作機械輸入協会会長 千葉雄三氏



日工販様と私ども輸入協会が合い携えまして今年1年頑張れば必ずや良い結果が得られると考えております。

今年1年、皆様良い年になりますようご祈念申し上げます。乾杯！



中締め：後藤副会長



わが国工作機械産業の需給実績と見通し

ニュースダイジェスト社主催の「2011年FA業界新年賀詞交歓会」が、去る1月12日(水)に名古屋キャスルプラザで開催され、約600名の参加者へ同社代表取締役社長 黒田嘉幸氏より主催者挨拶後恒例の「業界展望」について講演があり2011年の需給見通しとして1兆1,300億円と発表されました。この見通しは去る1月7日(水)日工会賀詞交歓会にて中村会長が述べられました1兆1,000億円とほぼ同じ見通しとなりました。引き続き第27回NDマーケティング大賞贈呈式が行なわれ(株)アマダ代表取締役社長 岡本満夫氏に贈呈され引き続き岡本社長による受賞講演が行なわれました。小憩の後、恒例の新春トップインタビューがニュースダイジェスト社常務取締役東京支社長 岩波徹氏による司会進行のもとに行なわれ、日工販会長長久保敏氏とレニショー(株)代表取締役社長 岩崎年男氏へのインタビューと共に各テーマに沿って会場に出席されている各界の代表者より貴重な情報公開がありました。紙面の都合上内容については割愛させて頂き、これよりニュースダイジェスト社のご厚意により当日配布されました資料を転載致します。

わが国工作機械産業の需給実績と見通し

[2011年1月12日発表・暦年ベース]

ニュースダイジェスト社《月刊・生産財マーケティング》編集部

1. 受注〔日本工作機械工業会統計〕

(単位:百万円、前年比%)

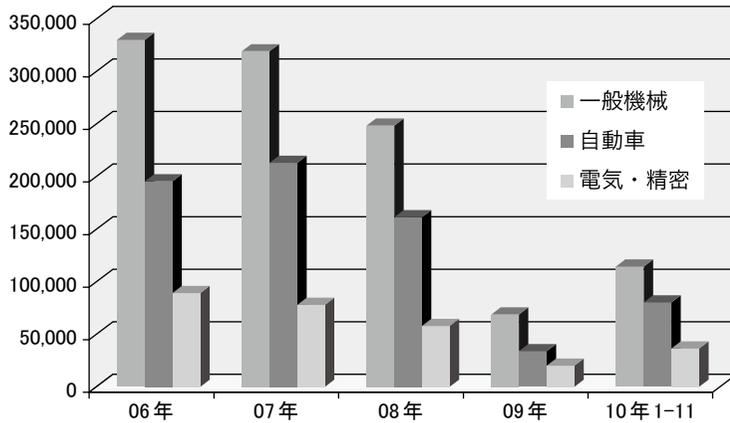
	2007年	前年比	2008年	前年比	2009年	前年比	2010年	前年比	2011年	前年比
総金額	1,589,991	+10.6	1,301,147	-18.2	411,809	-68.4	965,000	+134.3	1,130,000	+17.1
内 需	726,424	-0.9	566,820	-22.0	159,648	-71.8	302,720	+89.6	340,000	+12.3
外 需	863,567	+22.7	734,327	-15.0	252,161	-65.7	662,280	+162.6	790,000	+19.3

①リーマン・ショック直後の09年受注額が4120億円だったのに対し、昨年10年9650億円と2.3倍の伸びとなった。11年は回復基調も緩やかになり、対前年比17.1%増の1兆1300億円に。

	10. IV	11. I	11. II	11. III	11. IV
総金額	262,000	275,000	280,000	285,000	290,000
前年同期比	+69.6	+40.5	+14.2	+8.8	+10.7
内 需	83,000	83,000	84,000	86,000	87,000
外 需	179,000	192,000	196,000	199,000	203,000

- ②11年の内需は横這いから微増へ。外需は増加するものの増加率減少へ。全体に占める内需比率は30.1%。
- ③アジアは堅調、欧州は横這い、米国は回復方向へ。中国とインド、ブラジルは高成長続くがボリュウムゾーンでの競争激化も。
- ④自動車業界は、国内では厳しい状況が続くが、新車開発に期待。環境対応のHV、EVに注目。海外は新興国需要が旺盛。
- ⑤そのほか注目される需要業種は、EMS(電気電子受託生産)、液晶・LED、鉄道、環境対応、クリーンエネルギー、医療関連など。新興国向けでは建機需要も順調。

需要産業 受注額推移



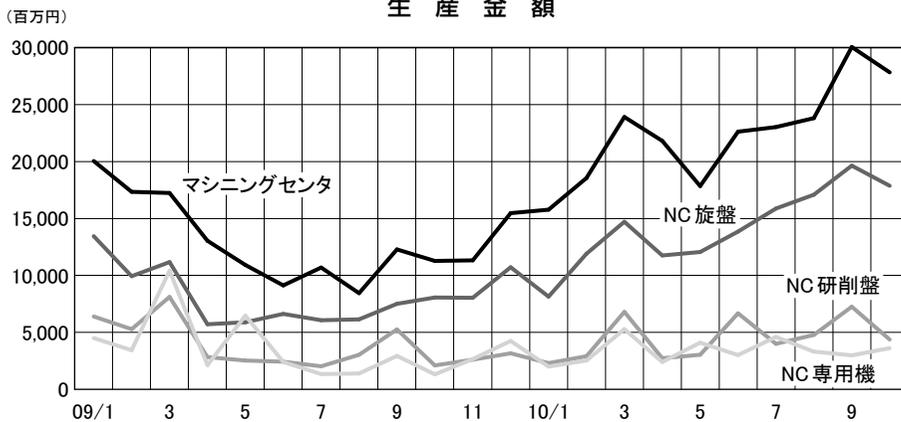
2. 生産 (経産省機械統計)

(単位：百万円・台・トン、前年比%)

	2007年	前年比	2008年	前年比	2009年	前年比	2010年	前年比	2011年	前年比
総金額	1,303,164	+7.6	1,249,184	-4.1	490,275	-60.8	745,000	+52.0	1,015,000	+36.2
台数	106,282	+6.1	95,310	-10.3	29,459	-69.1	68,000	+130.8	90,000	+32.4
重量	515,268	+4.7	492,188	-4.5	181,556	-63.1	330,000	+81.8	440,000	+33.3
単価	12.3	+1.7	13.1	+6.9	16.6	+27.0	11.0	-34.2	11.3	+2.9

- ①受注と生産にはタイムラグがある。10年は受注の伸びに合わせて前年の1.5倍になった。11年は引き続き伸びるものの、増加率は36%に下がる。
- ②機種別ではマシニングセンタとNC旋盤がリーマン・ショック以前の水準に戻ったが、NC研削盤とNC専用機はほぼ横這い状態が続いている。
- ③10年はアジアマシンなど低価格機分野の生産が増えたことで、1台あたりの単価は560万円下がった。11年は相対的に中大型機需要が増える見通し。

生産金額



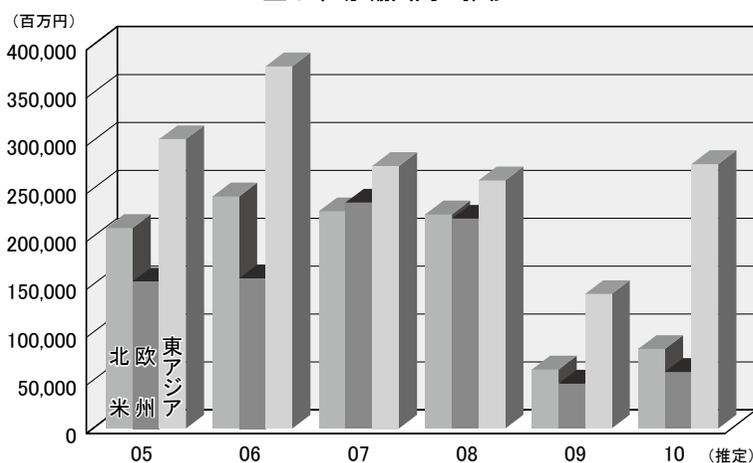
3. 輸 出 (財務省貿易統計)

(単位: 百万円、前年比%)

	2007年	前年比	2008年	前年比	2009年	前年比	2010年	前年比	2011年	前年比
総金額	892,032	-3.2	874,723	-1.9	321,399	-63.3	528,000	+64.3	625,000	+18.4
対北米	226,735	-6.4	223,485	-1.4	61,597	-72.4	83,000	+34.7	88,000	+6.0
対欧州	235,729	+50.5	219,006	-7.1	46,757	-78.7	59,000	+26.2	63,000	+6.8
対東アジア	274,036	-27.5	258,986	-5.5	140,417	-45.8	276,000	+96.6	344,000	+24.6

- ①世界同時不況の影響下で09年が底だった輸出も、10年にはいち早く回復した中国を始め新興国需要が貢献して64%の伸びを示した。
- ②欧米は経済停滞が続き、合わせて円高基調が工作機械輸出にも影響している。
- ③特に仕向地別では中国を中心とした東アジアの伸びが著しく、リーマン・ショック前の水準に戻した。
- ④中国は09年、10年と2年連続で自動車生産が世界一になった。11年も世界一の座は揺るがない。このほか高速鉄道や造船、建設、発電設備など高成長が続く。
- ⑤新興国ではインドとブラジルが注目市場。10年のGDP成長率はインドが9.7%、ブラジルは7.5%と高成長。

主な市場 輸出高の推移



4. 輸 入 (財務省貿易統計)

(単位: 百万円、前年比%)

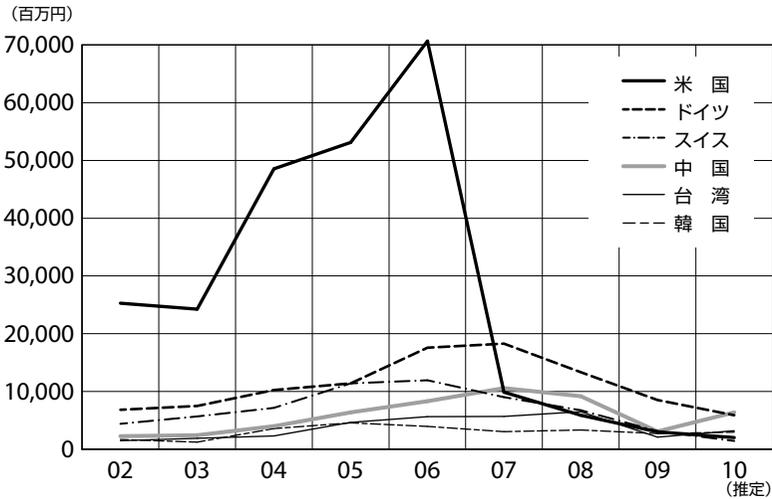
	2007年	前年比	2008年	前年比	2009年	前年比	2010年	前年比	2011年	前年比
総金額	72,601	-46.5	60,226	-17.0	28,717	-52.3	28,000	-2.5	28,500	+1.8
対北米	9,891	-86.0	6,072	-38.6	2,998	-50.6	2,000	-33.3	2,500	+25.0
対欧州	31,507	-9.0	25,444	-19.2	11,771	-53.7	9,500	-19.3	12,000	+26.3

- ①内需が低迷しているため、輸入機の販売は厳しい状況。10年も前年比マイナスの見込みで、3年前の1/3に縮小した。

②11年は、そろそろ設備の更新需要が出始め、前年比微増となりそう。

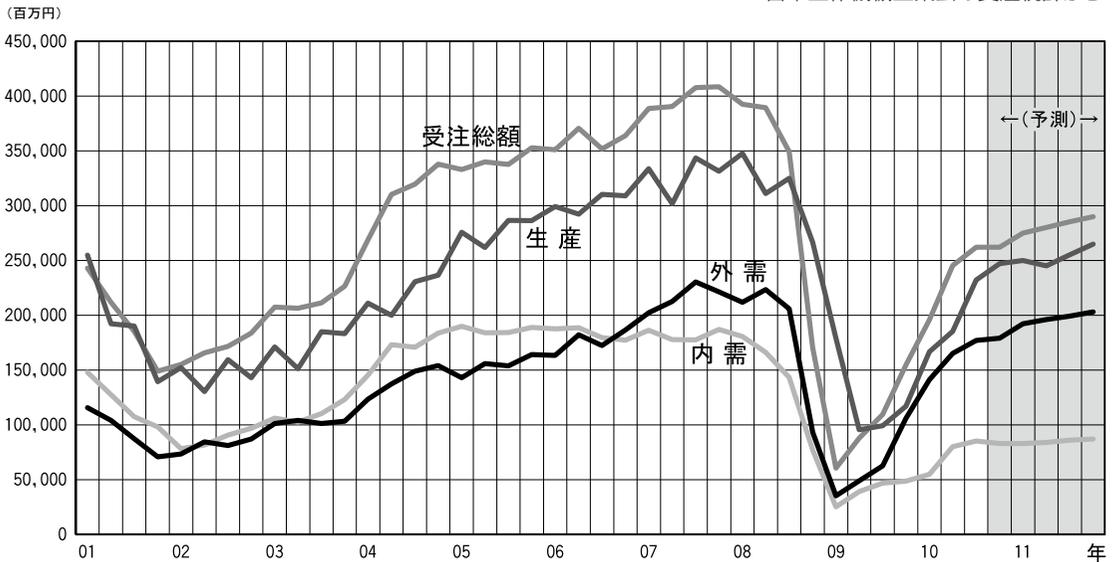
③輸入相手国別では、研削盤や歯車加工機などの高級機が中心の欧米が減少傾向にある一方で、中国からは横型旋盤および放電加工機の輸入が増えた。

工作機械輸入の国別推移

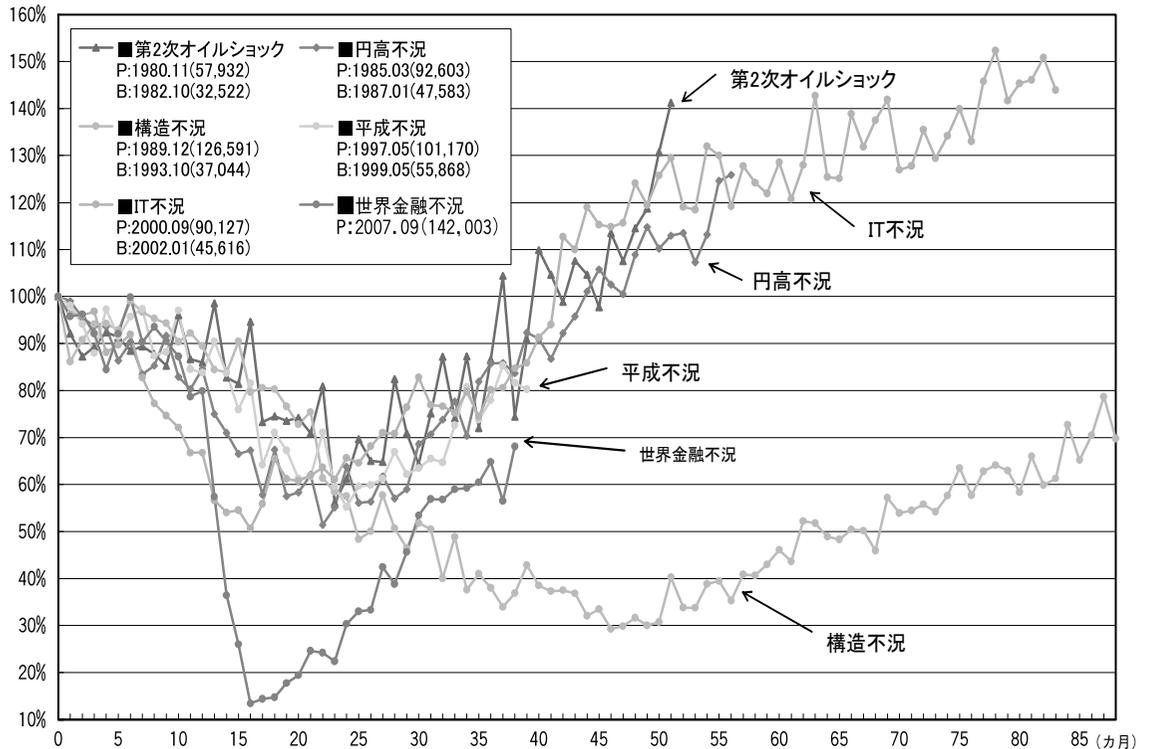


工作機械業界景気動向 (四半期別)

※日本工作機械工業会の受注統計から



工作機械「内外需」受注グラフ



(社)日本工作機械工業会資料より作成

●グラフの見方：景気の頂点にあたる四半期の受注額を100の指数で表し、その後の景気後退と回復（谷と山）の期間と高低を示した。

【グラフ説明】	頂点P	底点B	底点/頂点	P⇒B期間	次頂点/底点	B⇒次P期間
①第2次オイルショック不況	73年Ⅳ(163,470)	75年Ⅳ(108,280)	53.8%	24ヵ月間	246.5%	18ヵ月間
②円高不況	85年Ⅱ(266,873)	87年Ⅰ(157,690)	59.1%	21ヵ月間	229.9%	22ヵ月間
③構造不況	90年Ⅲ(362,446)	93年Ⅳ(114,914)	31.7%	42ヵ月間	251.3%	43ヵ月間
④平成不況	97年Ⅱ(288,732)	99年Ⅱ(176,602)	61.2%	23ヵ月間	147.6%	16ヵ月間
⑤IT不況	00年Ⅳ(260,587)	01年Ⅳ(148,929)	57.2%	14ヵ月間	248.8%	55ヵ月間
⑥世界金融不況	07年Ⅲ(407,689)	09年Ⅰ(60,393)	14.8%	16ヵ月間		?ヵ月間

分かりやすい話題の技術

Inteligible Recent Technics ★

No.122

需要が高まる中・大物部品加工用 フロア形横中ぐり盤



三菱重工業(株)
工作機械事業部 営業部 課長代理
境 弘 明

近年需要が高まっている新エネルギー産業に必要な中・大形部品加工で、横中ぐりフライス盤が必要なワークの需要が高まっています。JIMTOF2010に出展した新商品「すべてが進化して新登場 フロア形横中ぐりフライス盤 MAF150R」の最大特徴を図解を交え紹介させていただきます。

会員の皆様ご既承のとおり、横中ぐりフライス盤は構造上から発生する弱みがあります。それは「コラムの倒れ・主軸のたわみ」「主軸片持ち構造による摩擦腐食(フレットイング・コロージョンFretting Corrosion)」などであり、各社は独自の技術でこれらに対し対策を講じています。

弊社の“高い位置(高さ2500mm)での強い削り(37kWフルパワー)と、大物ワークの奥部加工(ラム繰り出し1400mm)”を実現するための特徴は“重切削構造体・熱変位補正機能など”であり次のとおりです。(図1~5参照)

1. 重切削対応構造体とする為に

- ①コラム、コラムベース、ベッド、サドル、ラムなどの主要構造物はオール鋳物化すると共に、太いコラムを二重構造化(図1参照)



図1. 重切削構造体

- ②ワイドな摺動面とするため、X・Y軸は静圧摺動面、Z・W軸にはすべり摺動面を採用
- ③さらに奥までしっかり加工するため、中ぐり主軸繰り出し量 1400mm まで可能とした。
ラム (Z 軸) 700mm + 主軸 (W 軸) 700mm = 1400mm を採用 (図 2 参照)

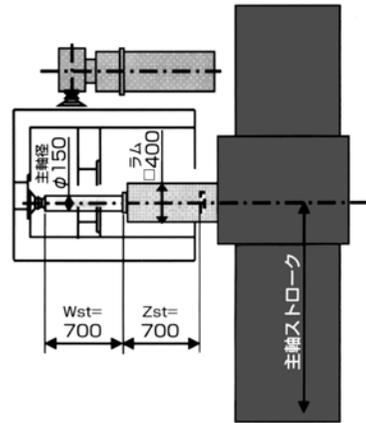


図 2. 中ぐり主軸繰り出し (Z 軸+W 軸)

2. 高精度を維持するための補正機能など

- ①姿勢変化補正及び熱変位補正機能を充実 (図 3 参照)
 - ・ラム出しによる主軸先端たわみ補正機能
 - ・コラム断面の熱対称構造でコラム倒れ低減
 - ・Z 軸熱変位補正機能
- ②全軸大径ボールネジ駆動を採用

3. 速さも同クラス機を圧倒

- ①早送りクラス最高速：
 - X 軸 24m/min、Y・Z 軸 20 m/min
- ②主軸最高回転速度：3,000min⁻¹

4. 加工に応じたアタッチメント選択可能

(図 4 参照、ヘッドの動きを矢印で表示)

- ①ライトアングルヘッド ②ユニバーサルヘッド
- ③ボーリングツールヘッド

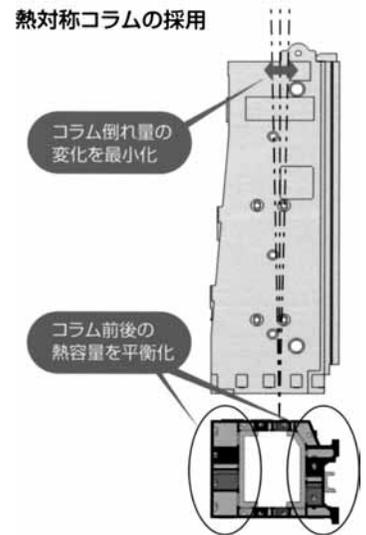


図 3. 熱変位補正機能

●加工に応じてアタッチメント選択可能

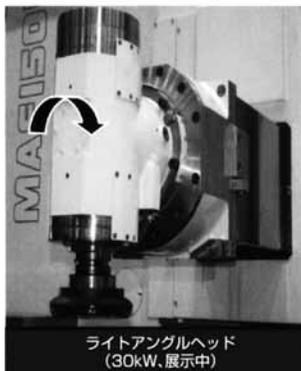


図 4. 加工に応じたアタッチメント

5. 導入事例紹介 (図5 参照)

- ①フロアプレートにアタッチメントトラックを組合せた事例
- ②対向機でフロアプレートを組合せた事例
- ③ロータリーテーブルとフロアプレートを組合せた事例

6. 主な仕様 (図6 参照)

項目		MAF150R (展示機仕様)
中ぐり主軸直径		φ150mm
主軸端テーパ		7/24テーパ ISO50
主軸回転速度		4,000min ⁻¹
各軸移動量	ラム(Z軸) 左右	700mm
	中ぐり主軸(W軸) 左右	700mm
	サドル(Y軸) 上下	3,500mm
	コラム(X軸) 前後	5,000mm
送り速度 (早送り)	X軸	24,000mm/min
	Y-Z軸	20,000mm/min
	W軸	10,000mm/min
主軸最大出力 (連続/30分定格)		30/37kW
主軸最大トルク		2,445N·m
ATC本数		60本
ライトアングルヘッド主軸最大出力		30kw
ライトアングルヘッド主軸回転速度		3,000min ⁻¹

図6. 機械仕様

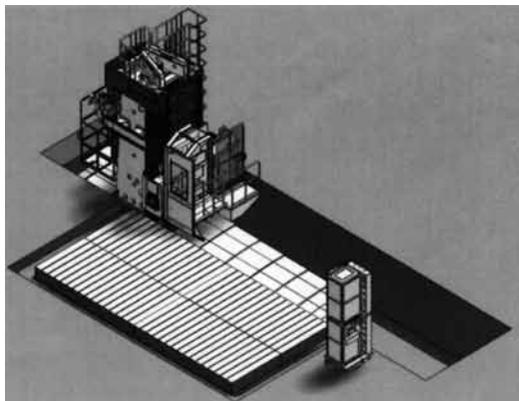
さいごに。皆様のニーズに耳を傾け、性能のみならず加工技術相談やアフターサービスに至るまで木目細かな事業を心がけて参ります。設備導入案件などの情報がございました折には、是非とも弊社にご連絡くださいますようお願い申し上げます。ユーザーとしてメーカーとして生産現場を知り尽くした三菱重工から加工技術・新商品情報をお届けしますので次へアクセスください。

ホームページ・アドレス

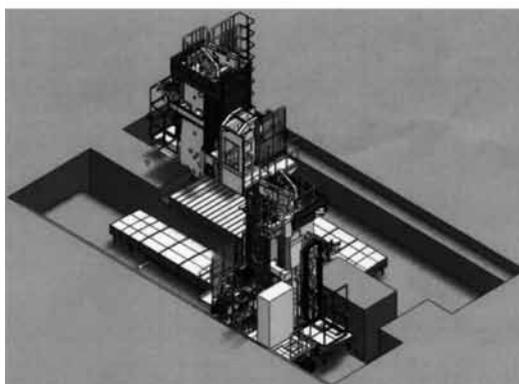
<http://www.mhi.co.jp/machinetool/>

お問い合わせ、メール

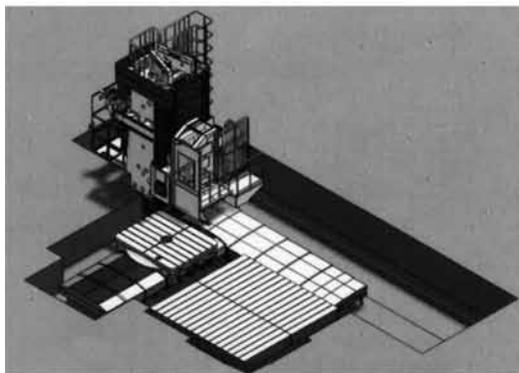
pp3002@mhi.co.jp



導入事例 1 (フロアプレートにアタッチメントトラックを組合せた例)

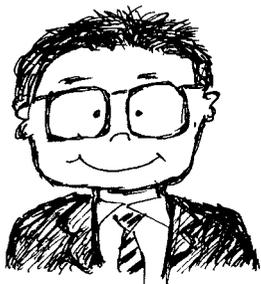


導入事例 2 (対向機でフロアプレートを組合せた例)



導入事例 3 (ロータリーテーブルとフロアプレートを組合せた例)

図5. 導入事例紹介



営業マン日記

さかい三十郎

「回数券」事件簿の巻

「ノミ行為は犯罪です」。これは競馬場・ウインズでアナウンスされる言葉である。これを新幹線車内に置き換えるとどうなるのか、今回は回数券事件簿の巻。もちろん実話です。

京都駅から乗車し、名古屋駅停車の後、浜松駅を通過するところに、名古屋から乗車した客の車掌検札が始まる。そのとき事件が発生した。

三十郎の後部座席で、3人の乗客と車掌とのやり取りが始まった。聞き耳を立てたてると、彼らはあやしい回数券で乗車してきた模様だ。この手のトラブルは概ね、車掌の「座席指定列車に遅れた場合は、当日の自由席に乗車ください。」との注意で穏便に済むことが多い。

ところが、今回のやり取り（トラブル）はどうも違う。さらに彼らの会話に聞き耳を立てた。

乗客A「回数券が購入された時点でJRは入金しているのだから、損はしないだろう。」

車掌「困ります。この回数券では乗車できません。」

乗客B「いいだろう。車掌のお前が損をする訳でもないし。」

乗客C「俺達も知らなかったんだヨ。」

乗客A「おう、今回だけだからよ。俺らも期限を忘れ保管してたんだ、見逃してくれよ。」

三十郎が推理するに、彼らは「期限切れ寸前の回数券を金券屋から格安に手に入れ、利用期限が微妙に過ぎた回数券」かも知れない。彼らの論法は、乗車料金と特急料金は「購入時に前納されており、JRに損はない」というものである。

三十郎は会話の内容から直ぐに感じ取った。「こいつら常習犯だ。」そして思わず口走った。

三十郎「おい車掌、許すなよ。そいつら常習犯だぞ！」「誰でも安く利用したいに決まっている。そいつらが許されるなら、誰でも期限過ぎの回数券で乗車するぞ。」

しばらくして、彼らはデッキへと移動し、交渉を続けることになった。気まずくなったのだろう。

三十郎「事の顛末は把握していないが、絶対に許すなヨ！」

詐欺の映画なら「スティング（製作1973年、監督ジョージ・ロイヒル）」につきる。

1936年シカゴ、ロバート・ショウ扮するギャングボスを相手に、一世一代のいかさまトリックを仕掛ける二人組みをポール・ニューマンとロバート・レッドフォードが好演。二転三転する脚本、ラストの場外馬券売り場での大逆転など見所満載の名作であり、ピアノ曲も秀逸で30年代のムードを醸し出した。

スティング映画シーンに列車内ポーカールがあるが、ポーカール詐欺なら映画「テキサスの五人の仲間（製

作1965年、監督フィルダー・クック)」。ヘンリー・フォンダのファミリーがポーカー仲間をかもる痛快な内容だ。三十郎はポーカーゲーム大会で「2のファイブカード」を成立させたこともあり思い出深い映画。

余談だが、航空路線各社が実施している利用者特典を、JRでも実施してもらえないだろうか。「マイレージポイント」や「早朝便に料金割引」などが有ると助かるのだが…。

更にもう一つ、三十郎の願望がある。それは映画ファンの為に「ムービー車両」を設けていただきたい。(座席前の小画面でなく、大画面を設置したムービー車両)。上映時間は東京一名古屋間を想定し、90分前後の作品。指定席料金として千円程度なら加算しても良い。さらに上映作品の選定は是非、この三十郎におまかせ願いたい。

「車掌の気転」の巻

回数券事件簿では車掌対応のまずさを描いたが、こんな粋な車掌もいた。真夏の出来事。金曜&土曜に開催した広島工場での展示会を終えた日曜の朝、広島駅から乗車した車両内で事件は起きた。同乗したのは当時京都工場のショールーム責任者であった榊井氏である。三十郎はまだ30代で、酒に煙草に小遣いを多用し、「俺は多額納税者だ！」と、いきがっていた頃の逸話。もちろん実話です。

4号車に乗りこむと同時にひかり号は発車した。岡山駅近辺を通過しようとしていた頃から、車内に異常を感じていた。

三十郎「熱い。車内が息苦しくなってきた。これはどうしたことだ。」

やがて車掌のアナウンスがされた。

車掌「4号車の冷房が故障しています。乗客の皆様にはご迷惑をおかけしますが、他の車両へご案内しますので、ご移動くださいますようお願いいたします。」

車掌の案内で乗客は移動を始めた。8月の車内に冷房は必須であり、当然の行動だ。しかし移動する乗客を横目に、二人だけは慌てる仕草も見せず悠然と構えていた。

喧騒が収まり車内が静かになったとき、車掌が二人に向かって来た。そして声をかけた。

車掌「申し訳ありません。他号車も満席となり、ご着席してもらおう車両がありません。」

車掌が精一杯の乗客対応をしたことは、制服に汗が染みていることでも判った。三十郎はネクタイを取りワイシャツも脱ぎ捨て、ランニングシャツ一枚となり体制を整えた。そして榊井さんに声をかけた。

「榊井さん。今日は貸し切りですよ。新幹線を車両ごと二人で貸し切るなんて、二度と出来ません。暑いぐらい我慢して、ゆったりと行きましょう」

同意した榊井さんも同様に脱ぎ捨てた。そして、おもむろに広島駅ホームで購入していた缶ビール2本を開け乾杯を行った。10分過ぎた頃、例の車掌が再度やって来た。車内はあいも変わらず二人だけである。車掌は二人に声をかけ、そして去って行った。

車掌「大変ご迷惑をおかけしています。ご協力いただきありがとうございます。」

車掌は座席に袋を置いていった。そこには見なれたモノが入られていた。

缶ビール6本セットである。

三十郎「いや、粋な車掌もいるものです。嬉しいですね」

二人は思わず相打ち、出張ならぬ小旅行気分とあいなった。世の中捨てたものではない、と感じた次第である。

榊井さんは京都で下車してしまい“東京までは一人旅か”と覚悟していたところ、名古屋駅から若者5人が侵入してきた。冷房が効いていないことを承知の上でだ。

3人席を回転させ6人車座となりワンカップを酌み交わし、ひかり号はターミナルへと進んで行った。(彼らは5人相席の指定が取れなかったのであろうが、良き車内空間時間を楽しませてもらった。)

余談であるが三十郎はこんな異常に出会っている。停電で1時間車内缶詰、大雨で、人身事故で運行停止、地震で一時停車などなど。こんな時の打ち手はただ一つ。特に子供連れの方は実行してください。『車内売店の飲食物を早期購入すること』



(イラスト：USAMI)



リレー随筆



チームワーク



ユアサ商事(株)
中部支社工業機械部
横田直也

今回リレー随筆の依頼を受け、改めてテーマを決められない自分の優柔不断さと趣味として語れるほどの物がない事に軽く(だいぶ?)ショックを受けつつも、せっかくの機会ですので一言述べさせて頂きたいと思います。

青春時代をサッカーに費やした私にとって、昨年の大きな出来事に「2010FIFAワールドカップ南アフリカ」がございました。直前までの日本代表と言えば、その成績の悪さから監督交代まで騒がれる程、先行き不透明、いや、お先真っ暗と言っても過言ではないチームだったと思います。私個人の予想も、大方の解説者・評論家も、そしてそれまで日本代表を応援し続けたサポーターの多くもグループリーグ敗退を予想したことと思います。しかしながら結果はどうだったでしょう？

皆さんもご存知の通り、下馬評を覆し自国開催以外のW杯で見事ベスト16へ駒を進め、そのうえ決勝トーナメント1回戦の戦いぶりは皆さんの胸を熱く打つものがあつたのではないかと思います。大躍進の背景に何があつたのかと、ベスト16の成績を称える一方で考えを巡らせてみれば、非難を一身に浴びていた監督の勇気ある決断と、その監督の下、スタメンもベンチも目標達成に向けてチームの結束をそれまで以上に固めた結果だったのではないかと思います。負けた試合でPKを外した選手に駆け寄り涙する仲間の姿に、作られたものではなく、自然に湧き出たチームワークを感じる事が出来た方も多いかもしれません。

先日高校サッカー選手権を見ておりましたが、試合に敗れ「みんなともっとサッカーがしたかった」と控え室で涙する選手を見て、自分自身も、辛くも楽しい日々と、みんなでサッカーが出来なくなる寂しさに、高校時代1リットルの涙を流した事を思い出しました。日本代表の選手達も、負けた悔しさもさておき同様な思いだったのではないのでしょうか。

無理やり仕事と絡めるわけでもありませんが・・・2011年卯年。

飛躍の年にするべく、数多くの難題に立ち向かう我々もサッカー日本代表と同じではないかと勝手ながら思っております。課でも部でも会社でもなく組織の枠を越えて、工作機械の製造、また販売に携わっている者として、広く手を取り合い一枚岩となって不景気に立ち向かい日本の底力、そしてチームワークを発揮出来ないかと感じている次第です。

W杯後、多くの選手が海を渡り海外のクラブに行つて挑戦をしております。国内市場が縮小し、海外市場が活況になる中、転勤を命ぜられ、海外に赴く方々もいると思いますが、選手達同様、頑張つて頂きたいと心

工作機械と私



(株)不二
第一営業部
青池 真一郎

私は工作機械商社の(株)不二に入社して18年が経つようになりました。

私は今まで皆様が書かかれているようなドラマチックであったり特筆するような経験はしてきていないのでなかなか書くことが思いつきませんが私なりに経験してきたことを書かせていただきます。

現在、私の担当するお客様は早くから世界各国に拠点を置きグローバルな生産活動をされており。私も機械の設置に合わせ多くの国を訪問させていただきました。米国、インドネシア、タイ、ベトナム、中国と国によって様々な考え方や文化がある事、逆に国が違って共通している大事なものの等の見聞を広げさせてもらい人間として貴重な経験を数多くさせてもらっております。

海外で機械の立ち上げも無事終わり、これでスーパーバイジングも終了となる時私は必ずその機械に手をあて「この先トラブルなく、安全に、がんばって稼動してくれよ」と機械に声を掛けてきます。私もこんな顔をしていても結構かわいいところがあるのです。そこだけ見た人には頭がおかしいのではと思われるかもしれませんがいいのです。そんな事をするのも、お客様からお引き合いをいただいた時点から始まってお客様との折衝や打合せ、上司やアシスタントの協力、はたまたメーカーさんの設計の方やメカニックの方々等多くの人が携わってそれぞれ頑張った結晶が結果として無事ユーザーに引き渡すことができた際はまるで娘を嫁に出すような？心境になります。

男三兄弟の息子を持つ私が言うのは説得力がないのですが感慨深くなってしまふ一瞬なのです。だから遠い異国の地に納入した機械の調子が良くないと聞くと、すぐに走っていける国内の機械とは違って時差や距離がある海外の機械の場合は必要以上に心配しますし、ちょっぴり胸が痛みます。とにかく娘達が嫁いだ先で健康で末永くかわいがってもらえたらいいと願うばかりです。

最後に小学生の息子達はまだ父ちゃんの職業である工作機械商社の営業というものを理解できてはいませんので彼等にはこの記事は見せないつもりであります。

ウチの父ちゃんは仕事でいろんな国々に行くけど各国に娘がいるのかと勘違いしてしまいそうで怖いんですから。

息子達よ、父ちゃんは国内外で真面目に頑張っているのだよ。

から応援しております。そして国内組も海外の皆様の活躍に負けない様、精一杯頑張りますので、共に工作機械W杯を勝ち抜きましょう！

次は(株)日本精機商会、名古屋支店第二営業課の秋田英登様にお問い合わせいたしました。ご無理を言って申し訳ございませんが宜しくお願い致します。

「もし高校野球の女子マネージャーが ドラッカーの『マネジメント』を読んだら」

著者：岩崎夏海（ダイヤモンド社）



首都圏リース(株)
機械設備営業部 次長
宮里 正司

この本は発売から6カ月間で100万部を突破、「ドラッカーブーム」の火付け役となり、2010年に話題となったことから読まれた方も多数いらっしゃると思います。私も話題になり始めた時に購入しようと思いましたが、本の装丁や途中の挿絵を見て購入を控えていました。たまたま別の機会で書店に行ったときに思い切って購入したところ、数時間で一気に読み終える程、平易な内容になっています。

あらすじは都立高校野球部の女子マネージャーがP.F.ドラッカーの経営書『マネジメント』に出会い、はじめは内容の難しさに戸惑いますが野球部を強くするのにドラッカーが役立つことに気がきます。そしてドラッカーの教えを野球部運営の実践に使用し、弱小野球部が甲子園を目指していくというものです。（結末は本書でご確認下さい。）内容的には万事思い通りに事が進む青春小説の読み物ではありますが、ドラッカーの「組織経営」についての入門書とみれば10～20代が主な購買層となっていることが理解できます。

本書で事業は何かとの問いに対し、ドラッカーは「企業の目的と使命を定義するとき、出発点の一つしかない。顧客である。顧客によって事業は定義される。事業は、社名や定款や設立趣意書によってではなく、顧客が財やサービスを購入することにより満足させようとする欲求によって定義される。顧客を満足させることこそ、企業の使命であり目的である。したがって「われわれの事業は何か」との問いは、企業を外部すなわち顧客と市場の観点から見て、初めて答えることができる。」としています。本書ではマネージャーが野球部をマネジメントする上で「顧客」の定義を考えますが、当初は野球部の顧客がわかりませんでした。部員と話し合って導かれた答えは野球部員も顧客であり、野球部に感動を求めているのが顧客になるとの結論に至るところから話しが展開していきます。

ところで本書の元になった『マネジメント』でドラッカーは「経験が私に教えたものは、第一に、マネジメントには基本とすべきもの、原則とすべきものがあるということだった。第二に、しかし、それらの基本と原則は、それぞれの企業、政府機関、NPOのおかれた国、文化、状況に応じて適用していかなければならないということだった。そして第三に、もう一つ、しかもきわめて重要な「しかし」があった。それは、いかに余儀なく見えようとも、またいかに風潮になっていようとも、基本と原則は、状況に応じて適用すべきものではあっても、断じて破棄してはならないものである。」とのメッセージを送っています。

経済情勢が不安定な中で、私が所属するリース業界では3年間で約40%もの取扱高が減少しているとの統計結果があります。このような時こそ改めて「顧客」、「基本」、「原則」に立ち戻り、業務に努めていきたいと再認識致しました。

第231回 定例理事会

日 時：1月7日(金) 11:00～12:00

場 所：八重洲富士屋ホテル5階

「あんず・なつめの間」

出席者：長久保会長、副会長3名、専務理事、
理事19名、監事3名、事務局1名

会長挨拶：

明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。皆様の晴れやかな顔を拝見して今年は良さそうだなと思っております。いろいろなところで新年のご挨拶をしまいましたが、確かに足元はまだまだ緩いところがあるかもしれませんが、暗い話しは去年までと、今年からは前に向かって行こうというお話を、トップの方々から聞かせていただきました。21世紀になってこの10年間いろいろな事が起こりました。そのとどのつまりがリーマン・ショックという事で、過去の戦後1945年から60年以上経つわけでおそらく大きな経済循環が来ていると思います。ですからこれからの40～50年は新しい世界にまた飛躍していくのだらうと思いますが、感じとしては先進国中心の世界経済が新興国とか発展途上の国々が主役となっているいろいろなものを進めていく大きなうねり、流れが来るのではと思われます。我々は日本のマーケットを主体にビジネスをやってきましたが、我々のお客さまもおそらく大きく動いていくであろうと予想されます。ですからお客さまに合わせ、またはお客様の少し先を我々が考えて行動し、日工販としても会員各社のプラスになるような方向付けをしていったら良いのではと思います。そういう視点を持ちながらいろいろな情報を集め皆様へフィードバックさせていただ

き、また成功事例があれば披露させていただくということで有効に情報の活用をさせていただければと思っております。今年1年本日からスタートということで皆様のお力をいただきたいと思いますので何卒よろしく申し上げます。

議 題：

【付議事項】

1) 平成23年度の会費について

外需に牽引され工作機械業界は回復基調であるが、内需は好調レベルには未だ回復しておらず審議の結果、平成23年度の会費徴収方法については平成22年度と同様会費徴収額を半額にすることで承認された。尚、支出については削減努力が必要であることが論議され平成23年度予算が討議される3月の理事会にて引き続き支出の削減案について審議、決議されることになった。

【報告事項】

1) 流通動態調査平成22年11月結果

流通動態調査結果についてはほぼ日工会発表の受注推移通りの動き。日工会短観調査11月、12月結果について参考までに報告。

2) 委員会報告

① 調査広報委員会11/24

会費収入減となった場合の調査広報をどのようにすべきか議論の結果として日工販ニュース発行回数の削減他細かい部分まで削減案を出した。日工販ニュース発行をやめてウェブにすることも検討したが会員には

パソコンに不慣れな方も居られるのではないかとこの配慮と官公庁、関係団体への日工販ニュースの配布などあり、現段階では発行回数を減らすという方向で取り進めることにしたが、さらに検討を進める。

② 西部地区報告（講演会・懇親忘年会）12/1

大阪弥生会館にて開催。第一部の講演会は経済産業省の協力を得て「ものづくりは「く」にづくり」という演題で製造産業局素形材産業室課長補佐高橋氏より非常に内容の濃い講演があった。続いて第二部の忘年懇親会が約100名の出席を得て開催され、非常に楽しく年末を締めることが出来た。

③ 中部地区報告（講演会・懇親忘年会）12/2

約130名の出席があり、講演会ではトヨタ自動車(株)常務役員井上氏より「良品廉価のハイブリッドカーを目指した生産技術」という演題でトヨタ自動車(株)の取り組みについて講演があった。その後の懇親会では和気あいあいと時間を忘れるぐらい楽しい会となった。

④ 東部地区報告（講演会・懇親忘年会）12/3

八重洲富士屋ホテルにて開催。講演会約60名の出席、懇親会約80名の出席。講演会は東大阪宇宙開発協同組合副理事長吉田氏より「まいど1号打ち上げ成功から夢は再び宇宙へ」という演題で講演があった。希望と目標を持ってやって行くということで東大阪の組合でもこういうことが出来たんだというお話で、つい俯さがちになりがちな時期ですがそのパワーというものもあり大変勉強になった。

⑤ 米国工作機械販売協会（AMTDA）会長 Van Crotts氏と面談

12月1日にCrotts会長と日工販は長久保会長、谷本国際委員長、宇佐美専務理事が面談し意見交換を行った。日工販とよく似た活動

をしているが特記事項として下記。

- AMTDAの役職は常勤のPresident（専務理事）を除いてSecretary（事務局長）、Treasurer（会計）、Chairman-Elect（次期会長）、Chairman（現会長）という4つの役職があり、Secretaryに選ばれると順に1年ずつ役職を経験しChairmanを務めて役職の卒業となり現会長より3年後に就任する会長が既に決まっているという合理的なシステム。
- 会費は年間売上の利益によって決定されるが、これは正直ベースでの報告に基づく。尚、協会の収入は会費収入、教育事業収入そしてSME（Society of Manufacturing Engineers）等の団体から会費収入からなっている。
- 懸案であったAMTDA主催の工作機械ショーIMX（Interactive Manufacturing eXperience）が今年ラスベガスにて9月12日ー14日に開催予定。このショーの特徴は限られた来場者（顧客のKey Personで招待者のみ）と限られたメーカー（DMG/MORI、DOOSAN、FANUC、MAG、MAKINO、METHOD、OKUMA、SANDVIK）による工作機械ショーで双方が技術テーマなどについてじっくりと話し合うことを目的としている。
- アメリカ的なのは年に一度の総会は夫婦での参加となり、場所はレジャー施設のある保養地にて会議のみならずゴルフ等イベントが催され3ー4日ほどかけて開催される。

3) その他

① 6月8日開催予定の通常総会後基調講演会の講師について：

次回の理事会には講師を決定することとし

それまで講師候補を検討することになった。

② 中部地区営業研修会について：

2月22日開催予定で、既に実施した東部、西部両地区での経験では受講生定員になかなか到達せずに会員に電話攻勢をかけるなど大変苦労した経緯があったので、特に中部地区の理事の方々には研修会に社員を積極的に派遣するようにお願いした。

③ 日工会市場委員会との情報交換会について：

昨日、日工会事務局より、3月16日に市場委員会との情報交換会が開催される旨連絡があった。日工販側出席者は前回同様に部長、本部長などの販売最前線に居る方々をお願いしたいとのことで人選を各地区委員長にお願いする。

④ 平成24年賀詞交歓会について：

平成24年の年初は1月6日が金曜日で7日(土)、8日(日)、9日(休日)と三連休後10日(火)、11日(水)と続くので、日工販としては1月11日(水)八重洲富士屋ホテルにて仮予約をしてある。

⑤ 平成23年度忘年懇親会について：

西部地区11月30日(水)、中部地区12月1日(木)、東部地区12月2日(金)の日程にて開催予定。

次回理事会：

3月9日(水) 14:30~16:30

大阪産業創造館

西部地区新春時局講演会

日 時：1月26日(水) 15:00~17:00

場 所：大阪産業創造館 会議室

演 題：『しばらくは「踊り場」の踏ん張りどき
——日本経済・社会の底流を読む』

講 師：松下 滋氏(エコノミスト、元・三和
総合研究所取締役理事)

植田機械(株)専務取締役植田修平氏による司会進行のもと、まず西部地区委員長、赤澤機械(株)赤澤正道氏より挨拶があり、講師紹介の後、恒例の新春時局講演会が始まりました。工作機械業界全体は輸出に牽引され回復基調にあります。専門家としてはこの一年間の業界を取り巻く環境をどのようにみているのか大変興味あるところで53名の出席者は松下講師の

説得力のある講演を熱心に聴いておりました。講演の後西部地区副委員長、伊吹産業(株)横幕武夫氏より講師への謝辞があり講演会は終了しました。講演会の要旨について下記の通りご紹介致します。

講演要旨：

我が国の政治

今しばらくは、政治不安定は続くでしょう。サッカーワールドカップがブラジルで開催される2014年ぐらいまでは王なき乱世が続きます。先日のテレビで歴代の総理を紹介していましたが、故橋本龍太郎夫人の発言で政治が不安定なのは橋本龍太郎の時代の人達が次を育てそこなったのではないかとさらりと

言っていたのが印象的でしたが、これは当たっていると思います。橋本龍太郎達は前の世代から政党内教育により厳しく育てられていたのです。従って今の政治はあまり期待できません。民主党幹部はみんな真面目で勉強家ですが、政党内教育で厳しく育てられた人たちとはちょっと違っており、たとえば悪いですが政党内教育を受けた人達は天然うなぎであって民主党幹部達は養殖うなぎです。しかし現在の自民党にも残念ながら代われる人材は居ません。

時代認識として

大体日本経済社会というのは次の通り四つの15年が組み合わさって60年で一巡となっています。

	社会現象	国民意識	課題
1885~1900	1945~1960	政治改革	集団目標の達成
1900~1915	1960~1975	経済発展	適応
1915~1930	1975~1990	文化模索	パターン維持
1930~1945	1990~2005	紛争混乱	統合
	2005~2020	政治改革の時代	
	2020~2035	経済発展	

例えば敗戦の年の1945年からの15年は政治の改革で、小さな政党がいくつも出来その中から1955年に自民党出来たのですがその時を含めて最初の15年間は政治改革です。次に政治の体制が出来てきた後、1960年から15年間に経済が発展することになります。国力が上昇するなかで東京オリンピック、大阪万博を開催しました。丁度今の中国が40年遅で北京オリンピック、上海万博開催と同じ状況になっています。その次の15年に資金が沢山集まったからと大いに文化をやりました。大阪では御堂筋パレードをやり、同じ博覧会でも花博覧会をやってみたり、言ってみれば

文化に金を使った時代です。しかしそのあたりからこれまでのやり方に限界が出てきて、それでのやり方が成功の基であったのが逆に失敗の基に変わってきて混沌とした時代になりました。文化の15年の後が混乱の15年となります。以上の通り日本経済社会は江戸時代を含めて、友人の分析ですが15年ですま政治の体制をしっかりとする、その後の15年に経済が伸びる、そして次の15年が文化が伸びて、そして次の時代への混沌とした15年が来る。この延長線上で考えると2005年~2020年は政治改革の15年となります。今年(2011年)ですからまだ政治改革のまん真ん中に居ることになる。小泉さんが出現したというかも知れませんがこの人は壊しただけで新しいシステムは何も創らなかった。その後

は滅茶苦茶となっています。滅茶苦茶の極端な人は鳩山さんです。15年ずつ60年で一巡ですから1955年に自民党体制が出来ましたから2015年あたりには何らかの形で新しい政党、新しい政治の形が出来てくると思

われます。よく政治のリーダーシップしっかりしていればとか言われていますがこれはないものねだりです。当面は試行錯誤が続き王なき乱世が続きます。私達経済にかかわる者としてはやはり自分のことは自分でしっかりやっていくしかないと思います。

世界経済：

いろいろありますが、一言で言って“世界は元気”です。敢えて言いますと欧州が少し苦しんでいます。基本的には元気です。だから私達も世界の元気をうまく活用することにこしたことはないと思います。平和が続いているこ

ともありますが世界が元気です。しかし元気な経済というのは波乱万丈です。若い人は元気ですが、急に熱が出たり、急に体調を崩したりします。年寄りには元気がない分それほど激しく動きません。世界経済が元気であるのをうまく汲み取りながら進んで行くべきと思います。

米国をどうみるか：

今年は良くもなし、悪くもなし。オバマ政権はオーバーに言えば南北戦争以来の政治が分裂してしまっています。昨年の中選挙があったって共和党の右寄り、民主党の左寄りが力を持ちました。つまり調整役である真中が居なくなってしまい政治的に分裂状態になってしまいました。そこがオバマ大統領の苦しいところであります。米国は悩んでいる状態ですが、取り敢えずは経済でどうにか活路を見いだそうとしています。個別にみますと結構米国も踏ん張っている部分があり、例えば米国を代表する企業であるゼネラルモーターズが再上場し、米国株式市場で高揚感が出てきました。これも良く見ると中国の市場で頑張っている訳で雇用には繋がっていません。米国はそれなりに頑張っていますがまだまだ長く厳しい回復過程にあることは冷静にみてそう言わざるを得ません。経済の成長率で言いますと2%程度で元気な時は3%、4%成長しますからあまり良くありません。でも底割れはするようなことはない状況です。わが国と似ているところもありますが金融緩和を一生懸命やっていますが、半分うまくいって半分うまくいっていない状況です。金融緩和を一生懸命することによって大企業や大銀行をある程度助けていることになり、国民生活つまり雇用、人々の希望には繋がって

ないということもあって、金融緩和政策を持続中ですが半分では批判も出てきています。「End of Fed」(フェデラルリザーブバンクの終末)と言って日本で言えば日本銀行にあたる中央銀行は要らないと言われていました。大企業や大銀行すなわちWall Streetを助けているだけで人々の雇用や希望に繋がっていないという状況ということで米国もそれなりに大変な状況ということですよ。いかにオバマ大統領が経済にウエイトを置いているかと言いますと、2010年の大統領教書で5年で輸出を倍増する計画とはっきり言ったことです。昔は米国が世界中からモノを輸入し、世界中が米国への輸出を目指して頑張ってきました。その米国が世界に輸出して頑張るという事で本当に時代が変わりました。5年間で倍増するという事は毎年14%ほど輸出を増やしていくことです。かつてわが国では高度成長期に所得倍増計画というものがありました。これは毎年7.2%増えると10年間で倍になりますという高度成長期のキャッチフレーズがありましたが、オバマ大統領が言っているのはその倍のテンポです。それだけオバマ政権は輸出に希望を託しているとも言えますし、米国がそれだけ輸出で勝負が出来るだけ他の国々で購買力が出来てきているというそれだけ世界の市場の懐が深くなったことで、これも以前とは全く違う状況となっています。いろいろ言ってきましたが、基本的には米国には強い力があると思っています。もともと何も無い国でインディアンしか住んでいない所に世界中から人が集まった歴史は300年ほどしかない国ですから常に新しいモノを創ることが米国の活力ですし、それぞれの地方も自立性を持っています。更に加えて言えば米国は毎年人口が250万人増えているということは毎

年大阪市がプラスされることになります。毎年1%の人口が増えるので米国の経営者は楽です。お客の数が毎年1%増加する訳ですからこれが米国の底力となるのです。ただ1%増えるが様々な人が入ってくるから社会的な摩擦、人種間の摩擦が増えますが、ビジネス面から見れば人口が増えるということは米国の基本的な底力であります。

中国について：

40年前の日本で、まだ若い経済として拡大しています。勃興期の経済は若者のように元気ですが高熱を出したりお腹をこわしたりするようにインフレになったりいろいろあって波乱万丈です。課題が沢山出てきますが元気だから全て乗り越えます。問題点は全て先送りされることです。まだ若さの強みが残っておりこれが現在の中国です。40年前の日本のように中国の成長の活力は続きます。自動車の販売は1,800万台を超え米国を抜きました。今までは沿岸地域だけが元気だったのですが徐々に内陸部にも経済の元気が少しずつですが移りつつあります。世界中を買いまくっていますがこれも高度成長期の日本に似ています。どこまでも自己流の中国ですが当面のポイントは元の切り上げでの問題です。日、中の経済学者達が最近東京で意見交換会を行いました。その時に出席した日本側の学者に聞きましたら、中国の学者連中は今円高を引き起こした1985年のプラザ合意以降の日本円の問題を徹底的に研究しているそうです。プラザ合意は円・ドル関係をそれまでの240円ぐらいだったのを160円に一気に円高に持っていきましたが、それがその後の日本の製造業を苦しめているという認識のもとに日本の二の舞だけは絶対にしないというス

タンスだけはものすごくはっきりしていると言っていました。ですから当分の間元の切り上げに対しては徹底抗戦で、やるにしても少しずつと思います。ただこれも40年前の日本と同じです。1971年にスミソニアン合意があり1米ドルが360円から308円になりました。そのあたりからじわじわと円高の流れが出来る訳ですが、その頃ロンドンから戻り大阪に居りましたが、日立造船を中心として円の切り上げは日本の造船業界が壊滅するとして断固としてNOであると主張していたことを目の当たりにしましたが、その時と今の中国は同じ訳で、歴史は繰り返します。ただ中国がこれだけ世界経済とかかわることになった以上やはり元は切り上げてもらわなければ困ります。証券の世界でもいろいろな形でかかわっており、強い企業の株価は強くなる訳で、しかも世界経済とかかわっている以上いつまでも自己流では困る訳です。日本もかつて円の切り上げに断固反対であった訳ですが世界における日本経済の地位の高まりに合わせて円を切り上げてきました。40年前の1971年のスミソニアン合意で308円となった円は今や80円です。1985年のプラザ合意で160円ですから25年で半分ですから、荒っぽく言って50年で3倍から4倍円は切り上がったことになります。ならば元も大きな目途としては50年間で3倍から4倍切り上げてもらわなければ困るわけです。世界経済というコンペに参加して大いにメリットを享受する以上ハンディキャップはシングルしてもらわなければ困ります。これは中国だけではなくてこれからインド、ブラジルにしても同じです。

太平洋・アジアの時代：

日本に近い太平洋・アジアが一番元気です。

1975年にロンドンのエコノミストという経済誌が1975年から始まる100年間は太平洋の時代であるという長文の特集記事を書きました。世の中は全くその通りに動いています。中国がぐいぐい伸びており西に行くと元気なベトナムがあり、ビジネスとしてはベトナムがとても良いと思います。社会主義政権ではあるけれどもイデオロギー的な側面はあまり強くなく、民族主義的な社会主義でホーチミンが狙ったのは民族主義です。すべてが日本の3分の2で、人口は8千万人位、国土の面積も3分の2、そして日本と違うのは真面目で勤勉で勉強家であり申し訳ないけれど今は日本の上に行っている。そしてプライドが高く、そういうベトナムがぐいぐい伸びてきています。さらにそこから西に行きますと太平洋の隣インド洋に面しているインドがすごい。今13億人の中国のことが盛んに言われていますが11億人のインドがそのうち中国を追い抜くスピードに出てきます。インドのさらに西には中近東諸国があります。ここは資源と金を持っています。ドーハでサッカーのアジアカップが開かれています。2022年にサッカーワールドカップが開催されるということはすごい事で、中近東でサッカーワールドカップが開催されるなど10年前には考えられなかったことです。それだけやはり中近東が力を持ってきているということですが、もちろんまだ力を持ち始めたばかりでドタバタです。さらにその西にはアフリカがあります。昔ロンドンにいる頃よくアフリカに仕事で行きましたが、そのころと違って今はアフリカがいよいよ経済の黎明期を迎えつつあります。今中近東とアフリカのお話をしましたが以前はヨーロッパの裏庭と言われました。今はアジア、太平洋に繋がるアジア、太平洋の一角とみ

てよいでしょう。と言う事で今や太平洋の時代です。ですから世界経済は大雑把に言って米国経済、欧州経済、そして米国、欧州を合わせた位のエネルギーを持った太平洋経済があり、わが国はその一角に絡んでいるということです。それぞれ中国にしてもインドにしても人口が多い訳ですから今更1億2千万人の日本が人口の多いところと競り合ってみても始まりません。我々はやはり多様性を持ちながらぐいぐい伸びている中国を冷静に念頭におきながらうまく商売でいただくものは頂くということを考えていくべきであろうと思います。

欧州について：

かつての先進地域である欧州の存在感は残念ながら落ちて来ています。ただユーロは無くなってしまふことはありません。昨年の春ぐらいにユーロの叩き売りがありました。ユーロは1999年に試験的に始まって実際に使われ始めたのが2000年でちょうど10年前です。世界的な基軸通貨になるには40年位の歴史が必要ですがユーロは出来て10年ですからまだまだ時間がかかります。ユーロは定着してきていますが国際通貨としてはまだまだこれからだと思います。急ぎすぎて経済的にバランスの良くない国を全て巻き込んでしまったのですからしばらくは混乱すると思います。英国を除くと欧州経済のNO.1ドイツ、NO.2フランス、NO.3イタリアの独、仏、伊がしっかりしている限りはユーロはゆっくりと存在感を示して行くだらうと思います。

日本経済について：

これまでお話してきたことを前提として“しばらくは踊り場”の“しばらく”はブラジ

ルでサッカーのワールドカップが開催される2014年までを言いますが、長い時間のようですがもうすぐそこです。2011年は名目で0.9%、2012年は1.7%の成長率ということで1~2%成長で減茶苦茶ひどい事にはならないが実感なき経済、為替相場は80円カスカスという様に前提としておいた方が良いと思います。株価も為替相場に引きずられます。個人消費については納得すれば消費は伸びます。派遣社員の女子が大好きな音楽会には渋谷から夜行バスに乗ってでも大阪までやってきます。納得さえすればみんなどこへでも行く訳です。昨年の春、秋二度飛騨高山へ行きましたがフランス人でいっぱいでした。不便でも人々はそこに行ってお金を使う訳です。

世界需要について：

世界は元気です。ならばそれをうまく掴むということが大事です。内需ももちろん大事ですがアジアだけではなく世界にうまく絡んで行く必要があります。ただ相手は波乱万丈ですから冷静にみていく必要があります。例えば中国のビジネスもストレートに取り組むと危険です。政治は共産党独裁体制ですから、いつ混乱するか分からないリスクを抱えています。もし中国と絡むならワンクッション、ツークッションおき、リスクマネージメントが大事です。

長寿需要：

米国は毎年人口が1%ずつ増えています。日本は残念ながら少子高齢化で当分人口は増えません。しかし長生きです。私は71歳ですが仕事をしているエコノミストの世界ではまだ鼻たれ小僧です。長寿に関する需要をどのように押さえていくかです。まず長寿の人の

医療・介護である健康、取り巻く環境の安全そして豊かさの最後ターゲットであるゆとりのある家、中高年は旅好きですから観光、さらに日本人は基本的に勉強好きですからボケ防止に繋がる教育が必要です。元気な中高年がいるのでいろいろな形での長寿需要をどうつかまえていくかがひとつのポイントだと思います。

高度情報化サービス：

日本はマネーゲーム国柄ではないと思いますので、日本人は基本的にマネーゲームは上手ではありません。30代の若い頃ロンドンで働いておりましたが、そこは根っからのマネーゲームでした。そこで活躍している人は、ユダヤ人、インド人、中国人と天才的に博打が上手な人達です。一方コツコツ積み上げていくのが日本の国柄です。ならばモノづくりを中心にホームベースをしっかりと守りながらそのなかにいろいろな意味での高度情報化サービスの匠を織り込んでいくということではないかと思います。バブルが崩壊した時にひところ“清貧”の思想が言われましたが、やはり出来れば豊かでありたい訳で、但しバブリー、マネーゲームではなくて、“清富”で大いに経済の活力を上げていきたいと思います。時々政治がリーダーシップをとってもらわねば困るという意見もありますが、冒頭に言いましたように王なき乱でありますのでやはり企業家精神をもって自ら頑張るべきと思います。

甘回辛回



(株)三機商会
営業課長

池田 剛 伯

毎年正月が終わると、何もしなかったようで少し悔しい気持ちになります。今年も相変わらずで、精々好きな映画のビデオをひっぱり出してきてぼうっと眺める程度でした。

「ウォール街」は1987年公開、オリバー・ストーン監督の作品です。有名な映画なので見た方も沢山いらっしゃると思います。ストーリーは証券会社の営業マンが大物投資家に取り入って成功する過程でインサイダー取引に手を染めてゆき、最終的には父親の働く弱小航空会社も巻き込んで身を破滅させるというものです。なお、今年1月末からは続編も公開されます。リーマン・ショック後のウォール街がどのように描かれるのか楽しみです。

久しぶりにビデオを見て印象的だったのはさりげない日本の扱い方です。カネを手にした主人公は自宅で寿司を食べ、ウォール街のオフィスから株式の買入を入れる先はシティでも香港なく東京でした。企業買収を目論む投資家は株主総会の席でアメリカは「世界の二流に落ち」、企業買収は「株式会社USAを再建させる」ためだと演説します。1987年当時誰もが何の違和感も無く見ていた描写が、不思議な懐かしさや悲しさを持って目と耳に入ってきました。何の事は無い、我々の今居る場所が映画の中のウォール街とそっくりだからかもしれません。ただし、我々が居るのは似非ウォール街、しかも当時のままの姿で20年以上遅れをとっています。

オリバー・ストーン監督は拝金主義的な風潮を嫌っており映画でも批判的に描かれていますが、現実はその後現在まで資本至上主義まっしぐらです。映画に憧れて投資の世界に入った人も多く監督としては不本意だったようです。様々な意見があるとは思いますが、個人的には各種のファンドからの投資資金は貴重な存在であり、敬意を持って耳を傾けなければいけないと思っています。彼らもその投資から収益を上げなければならぬ以上、真剣である事には変わりありません。投資先には万全の調査と理解を持って臨んでいるはず。むしろ足りないのは投資を受ける側の理解と心構えではないでしょうか。出資者が何を望んで、どのような手法でリターンを得ようとしているのか？ 資金を受ける自分たちが中長期でどこを目指して何に資金をつぎ込めば良いのか？ 対等な理解があって初めて交渉することが可能です。

近年では大手だけでなく中小の企業にも投資資金の申し入れが増えてきたようです。正しい道を歩くことができれば、1987年のウォール街をまた違った形で見ることができるとも思いません。

映画の最後で主人公の父親が全てを失った息子にかかる言葉が忘れられません。

「他人の売り買いで無く、自分で創れ」

2011年は自分で創る商売ができるだろうか？ そんな事を思いながらテレビのチャンネルを朝から延々と続くお笑い番組に合わせた正月でした。

統

計

資

料

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

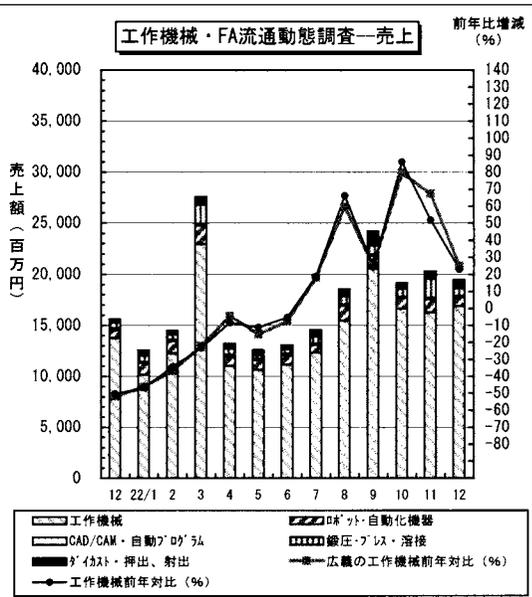
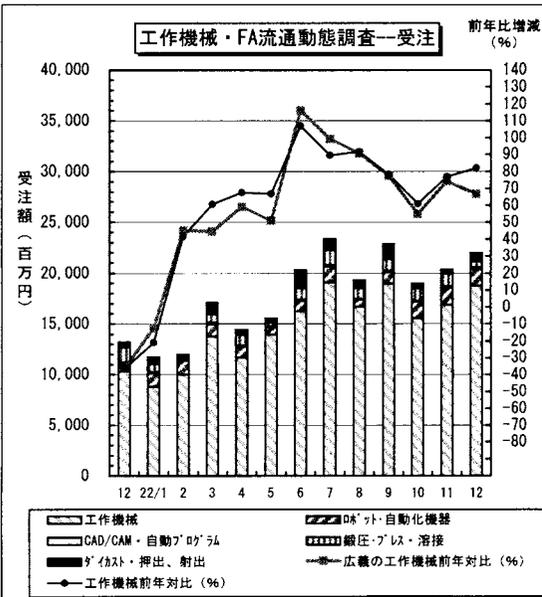
39社合計		受 注				売 上				
調査月次	22/12	前月比	前年比	22/1-12	前年比	22/12	前月比	前年比	22/1-12	前年比
工作機械	18,742	11.2%	82.1%	180,221	65.7%	16,921	4.2%	22.9%	176,640	1.9%
広義の 工作機械	1,651	-0.5%	108.9%	14,994	30.9%	873	-34.1%	19.1%	13,448	-5.3%
CAD/CAM・自動プログラム	136	-22.1%	-10.7%	1,578	4.5%	106	-26.9%	-55.4%	1,585	3.5%
鍛圧・プレス・溶接	610	-50.2%	-57.9%	10,950	29.3%	726	-60.6%	33.5%	10,136	-25.1%
ダイカスト・押出・射出	840	97.6%	68.7%	10,097	164.8%	851	10.5%	176.3%	7,962	123.0%
小計	21,978	8.0%	66.7%	217,839	62.5%	19,477	-4.2%	25.0%	209,759	1.8%
工作機械以外の扱い商品	10,030	9.0%	28.0%	113,070	35.7%	10,782	10.6%	38.0%	113,503	24.5%
合計	32,008	8.4%	52.3%	330,910	52.2%	30,258	0.6%	29.3%	323,262	8.7%
従業員数	1,294	-0.6%	-4.1%							

統計2

単位百万円

29社合計		受 注				売 上				
調査月次	22/12	前月比	前年比	22/1-12	前年比	22/12	前月比	前年比	22/1-12	前年比
直販 (内リース)	12,951	3.6%	58.1%	136,776	49.6%	11,956	-11.1%	56.0%	127,590	2.0%
卸	1,319	22.8%	303.4%	9,392	78.7%	1,102	51.2%	204.4%	9,118	-7.8%
輸入	4,730	9.5%	42.9%	50,941	84.9%	4,747	15.1%	-8.2%	53,879	18.0%
輸出 (内間接輸出)	206	-16.3%	229.6%	1,856	-47.9%	432	336.4%	-68.4%	5,316	-19.9%
従業員数	972	-0.6%	-3.0%							

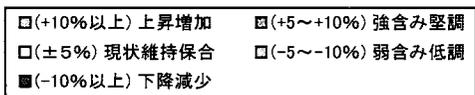
注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員69社中統計1に関しては39社、統計2に関しては29社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は42社である。



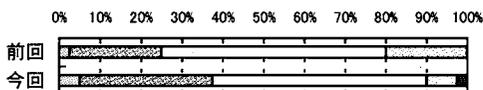
工作機械・FA流通動態調査2

今回平成23年1月調査/前回平成22年10月調査対比

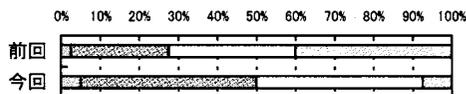
1. 工作機械全体見通し



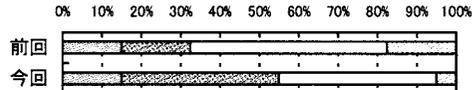
現状に比し直近(1~3ヵ月)は



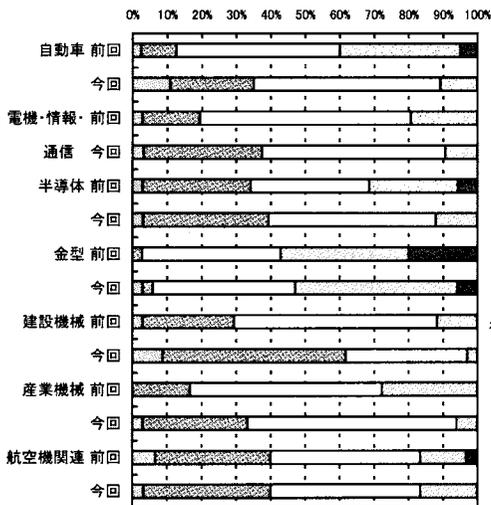
過去半年に比し向後の半年は



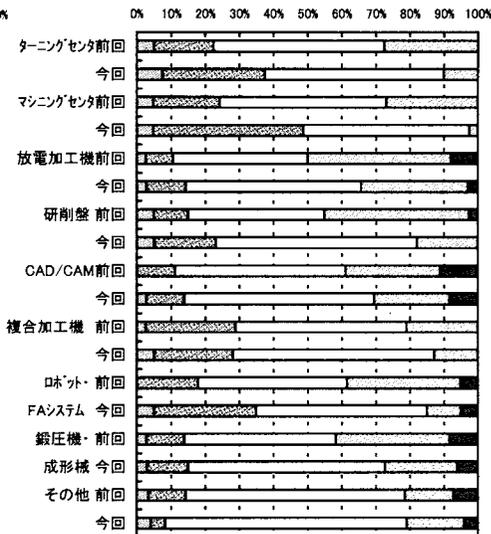
過去1年に比し向後の1年は



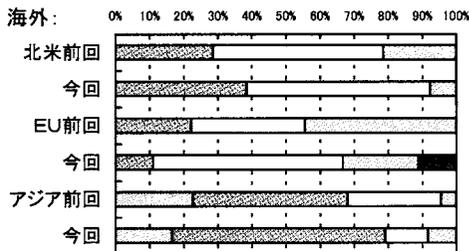
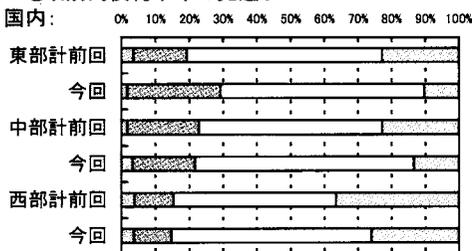
2. 市場別向後約半年の見通し



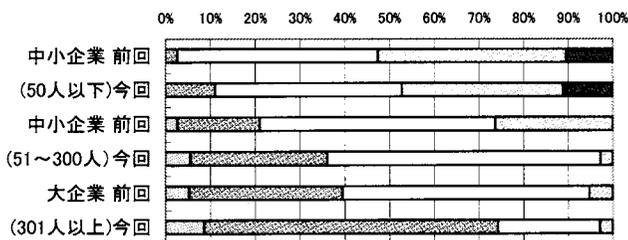
3. 製品別向後約半年の見通し



4. 地域別向後約半年の見通し



5. ユーザー規模別向後約半年の見通し



注: 調査データは日工販ホームページをご覧ください。

工作機械業種別受注額(2010年12月)

1月18日発表

(単位：百万円、%)

需要業種	期	2009年 累計	前年比	2010年 7~9月 累計	2010年 10~12月 累計	前期比	前 年同期比	2010年 1~12月 累計	前年同期比	12月分	前月比	前年同月比
機械 製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	4,054	31.2	1,369	1,757	128.3	129.0	6,061	149.5	504	97.1	66.1
	2. 金属製品	6,555	34.1	3,512	2,655	75.6	121.2	11,218	171.1	1,107	128.4	114.4
	3. 一般機械 (内金型)	68,911	27.7	36,891	35,716	96.8	193.8	125,580	182.2	11,085	80.5	172.7
	4. 自動車 (内自動車部品)	11,628	29.8	4,854	3,971	81.8	134.4	16,352	140.6	1,372	97.9	112.4
	5. 電気機械	33,862	21.0	22,458	25,375	113.0	232.0	89,373	263.9	9,083	100.4	241.0
	6. 精密機械	16,974	20.7	15,985	18,244	114.1	247.1	59,733	351.9	6,216	94.3	216.3
	5~6. 電気・精密計	12,488	37.8	6,209	5,099	82.1	142.7	19,231	154.0	1,999	137.5	207.6
	7. 航空機・造船・運送用機械	7,666	31.0	5,491	5,792	105.5	217.7	21,461	280.0	2,287	111.2	213.5
	3~7. 小計	20,154	34.9	11,700	10,891	93.1	174.7	40,692	201.9	4,286	122.1	210.7
	8. その他製造業	11,183	36.3	2,847	6,107	214.5	210.2	14,049	125.6	3,251	219.4	305.0
	9. 官公需・学校	134,110	26.9	73,896	78,089	105.7	202.8	269,694	201.1	27,705	99.6	208.5
	10. その他需要部門	5,207	24.7	3,448	2,050	59.5	113.1	10,485	201.4	827	116.6	120.7
	11. 商社・代理店	4,698	213.6	752	1,533	203.9	44.9	3,292	70.1	776	166.2	53.2
1~11. 内需合計	3,471	43.5	1,575	1,196	75.9	106.2	4,956	142.8	437	104.5	112.6	
12. 外需	1,553	31.3	446	549	123.1	198.9	1,821	117.3	170	109.0	193.2	
1~12. 受注累計 (内NC機)	159,648	28.2	84,998	87,829	103.3	180.4	307,527	192.6	31,526	101.9	178.7	
販売額 (内NC機)	252,161	34.3	176,981	187,886	106.2	177.6	671,095	266.1	67,264	102.3	157.9	
受注残高 (内NC機)	411,809	31.6	261,979	275,715	105.2	178.5	978,622	237.6	98,790	102.2	164.0	
(注) その他製造業……… 楽器、皮革製品等の製造業	392,559	31.3	246,380	266,288	108.1	181.0	934,229	238.0	96,007	102.9	168.5	
出所 (社) 日本工作機械工業会	596,920	40.6	242,362	238,392	98.4	189.6	851,272	142.6	89,754	108.8	173.0	
	576,381	40.6	231,671	229,384	99.0	189.0	814,732	141.4	86,963	110.1	172.6	
	382,592	66.6	472,249	508,446	107.7	132.9	508,446	132.9	508,446	101.6	132.9	
	354,272	65.0	443,083	478,868	108.1	135.2	478,868	135.2	478,868	101.7	135.2	

(注) その他製造業……… 楽器、皮革製品等の製造業

出所 (社) 日本工作機械工業会

平成22年 小型工作機械受注高統計

受注高

(1~12月分)

分類		受注実績	台数 (台)	金額 (百万円)	輸出台数 (台)	輸出金額 (百万円)	比率 (%)
非 NC 小型 工作 機械	小型旋盤		86	101	7	12	11.6
	小型自動旋盤		8	25	6	18	71.0
	小型フライス盤		4	10	1	2	0.0
	小型研削盤		522	4,754	46	518	10.9
	その他の小型工作機械		1,328	1,850	113	290	15.7
	小 計		1,948	6,740	173	840	12.5
NC 小型 工作 機械	NC小型旋盤		5,202	42,208	3,618	27,391	64.9
	NC小型フライス盤		11	199	8	149	75.1
	NC小型研削盤		317	6,376	156	3,049	47.8
	小型マシニングセンタ		454	5,784	243	3,236	55.9
	その他のNC小型工作機械		715	5,489	451	3,539	64.5
	小 計		6,699	60,057	4,476	37,365	62.2
付属品・ユニット・部品			0	12,955	0	3,458	26.7
合 計			8,647	79,751	4,649	41,662	52.2

出所：日本小型工作機械工業会



日工販SE合格者 第180回発表

今回は1月の合格者15名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
11-19-2481	(株)兼松KGK	降矢龍一郎	11-20-2489	(株)森精機製作所	大前 浩司
11-20-2482	ユアサ商事(株)	小田切洋一	11-20-2490	(株)森精機製作所	合田 辰治
11-20-2483	(株) 東 陽	大籠 俊司	11-20-2491	メルダシステムエンジニアリング(株)	吉田 茂
11-20-2484	ワシノ商事(株)	山本 晃示	11-20-2492	メルダシステムエンジニアリング(株)	才木 智弘
11-20-2485	(株)森精機製作所	佐々木 勝	11-20-2493	メルダシステムエンジニアリング(株)	後藤 欽也
11-20-2486	(株)森精機製作所	平佐 芳宏	11-20-2494	興銀リース(株)	池内 豊
11-20-2487	(株)森精機製作所	大矢 悟	11-20-2495	(株)ナベヤ	山本 恭之
11-20-2488	(株)森精機製作所	北垣 内剛			

会員・業界消息

住所変更:

東部地区正会員 三菱商事テクノス(株) 本社
〒108-0014 東京都港区芝5-34-7田町センタービル15階
TEL 03-3453-7441 FAX 03-3453-7449 (TEL FAXは変更ありません)

日工販会員代表者変更:

メーカー賛助会員 (株)ジェイテクト 工作機械・メカトロ営業推進部部长 今川則行

行事予定

東部地区委員会	2月9日(水)	機械工具会館
中部地区研修会	2月22日(火)	名古屋市工業研究所
教育委員会	3月1日(火)	機械工具会館
政策委員会・定例理事会	3月9日(水)	大阪産業創造館
調査広報委員会	3月15日(火)	機械工具会館
西部地区会員懇談会	3月17日(木)	大阪弥生会館
政策委員会・定例理事会	5月11日(水)	安保ホール
第42回通常総会・講演会 懇親会	6月8日(水)	八重洲富士屋ホテル
政策委員会・定例理事会	7月6日(水)	機械工具会館
政策委員会・定例理事会	9月14日(水)	大阪産業創造館
政策委員会・定例理事会	11月10日(木)	安保ホール

展示会

nano tech 2011 国際ナノテクノロジー総合展	2月16日(水)~18日(金)	東京ビックサイト
台北国際工作機械見本市 (Taipei International Machine Tool Show, TIMTOS 2011)	3月1日(火)~6日(日)	台北世界貿易センター1.2.3館・ 台北世界貿易センター南港展覽館
CIMT 2011 中国国際工作機械展示会	4月11日(月)~16日(土)	北京・中国国際展覧中心(新館)
LASER EXPO 2011	4月20日(水)~4月22日(金)	パシフィコ横浜
INTERMOLD 2011 (第22回金型加工技術展)	4月20日(水)~23日(土)	東京ビックサイト
MEX 金沢 2011 (第49回機械工業見本市金沢)	5月19日(木)~21日(土)	石川県産業展示館
微細・精密加工技術展 2011	5月25日(水)~27日(金)	インテックス大阪
スマートグリッド展&次世代自動車産業展	6月15日(水)~17日(金)	東京ビックサイト
難加工技術展 2011	7月6日(水)~8日(金)	ポートメッセ名古屋
プレス・板金・フォーミング展 MF-Tokyo 2011	8月3日(水)~6日(土)	東京ビックサイト
EMO HANNOVER 欧州国際工作機械見本市	9月19日(月)~24日(土)	Hannover 国際展示場
MECT 2011 メカトロテックジャパン	9月29日(木)~10月2日(日)	ポートメッセ名古屋
測定計測展 Measuring Technology Expo 2011	10月12日(水)~14日(金)	東京ビックサイト
次世代ものづくり基盤技術産業展 TECH Biz EXPO 2011	10月19日(水)~22日(土)	ポートメッセ名古屋
2011 国際ロボット展	11月9日(水)~12日(土)	東京ビックサイト

編集後記

- 2月号をお届けします。今月号は特集として1月12日開催のニュースダイジェスト社主催FA業界賀詞交歓会にて配布された資料の紹介、そして恒例の1月26日開催西部地区新春時局講演会の内容を掲載しました。
- 2月だけは一カ月が28日あるいは4年に一度29日となり30日又は31日となっている他の月とは異なっています。調べてみますと二つの理由がある様です。現在の太陽暦のもととなる暦は主に農耕のためローマで作られたので農作業をしない冬は暦というものがなく3月に始まって12月で終わっていました。その後現在の1月、2月に相当する月が作られ3月から始まって2月に終わるようになっていました。そしてローマの独裁官ユリウス・カエサル（ジュリアス・シーザー）が現在の暦の原形であるユリウス暦を定め奇数月を31日、偶数月を30日としました。即ち当時は8月と2月は30日でしたが、これでは一年が366日になってしまうので一番最後の月である2月を閏年は30日として平年は29日にしました。これが第一番目の理由です。その後カエサルは年の始めを現在の1月にしました。そして第二番目の理由となりますが、カエサルの後継者で初代ローマ皇帝となったアウグスタスは自分が生まれた月である8月が30日しかないのは不愉快として8月も31日して9月から1日ずらして9月、11月を30日、10月、12月、1月を31日にしました。しかしこれでは平年がまた366日になってしまうので、しかたなくまた2月から1日とって平年は28日、閏年は29日したのです。尚カエサル、アウグスタス共に自分の生まれた月にもとからあった名前から自分の名前に変えました。即ちカエサルは生まれた7月をユリウス（英語読みはジュライ）とし、アウグスタスは8月生まれですから8月をアウグスタス（英語読みはオーガスト）とし現在に至っているのです。
- 日工会発表2010年12月の工作機械受注確報によりますと内需は11月に引き続き300億円超えの315億円、外需は673億円の総額988億円となり、これも2カ月連続の900億円超えとなりました。これにより2010年受注は内需総額3,075億円、外需総額6,711億円の総額9,786億円となり、日工会中村会長が年初に発表された2011年受注予想1兆1,000億円が現実味を帯びてきます。欲を言いますと日工会賀詞交歓会にて経済産業省製造産業局長鈴木正徳氏が内需も拡大して2兆円規模を期待したいとご発言がありましたように内需が過去最高であった7,000億円レベルに是非近づいて欲しいと思います。

「日工販ニュース」 Vol.23—No.02

平成23年2月15日発行

発行	日本工作機械販売協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階 電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者	専務理事 宇佐美 浩
編集	日工販調査広報委員会 委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成23年2月1日現在

正会員(全69社)

【東部地区(33社)】

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠マシンテクノス(株)
 今井機械工業(株)
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株) カネコ・コーポレーション
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興
 (株) 三 機 商 会
 三 洋 マ シ ン
 サ ン ワ 産 業
 シ マ モ ト 技 研
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 双日マシナリー(株)
 帝通エンヂニヤリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 (株) ト ミ タ
 (株) 豊 通 マ シ ナ リ ー
 (株) N a i T O
 (株) ナ チ 常 盤
 日 鋼 商 事
 藤田総合機器(株)
 丸紅マシンツールズ(株)
 三井物産マシンテック(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤ マ モ リ
 ユ ア サ 商 事
 米 沢 工 機

【中部地区(20社)】

石 原 商 事
 (株) 井 高
 岡 谷 機 販
 力 ト 一 機 械
 釜 屋
 岐 阜 機 械 商 事
 甲 信 商 事
 三 栄 商 事
 三 機 商 事
 サ ン コ 一 商 事
 三 立 興 産
 下 野 機 械
 (株) 大 成
 (株) 大 誠

(株) 東 陽
 (株) 日 本 精 機 商 会
 浜 松 貿 易
 (株) 不 二
 山 下 機 械
 ワ シ ノ 商 事

【西部地区(16社)】

赤 澤 機 械
 伊 吹 産 業
 植 田 機 械
 (株) お じ ま
 関 西 機 械
 京 華 産 業
 五 誠 機 械 産 業
 桜 井 機 械
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大 幸 産 業
 (株) 立 花 エ レ テ ッ ク
 西 川 産 業
 日 本 産 商
 マ ル カ キ カ イ
 宮 脇 機 械 プ ラ ン ト
 (株) 山 善

賛助会員(全74社)

【製造業(58社)】

(株) アマダマシンツール
 育 良 精 機
 (株) エ 工
 エヌティーツール(株)
 (株) MSTコーポレーション
 エ ン シ ユ ウ
 オ ー エ ス ジ ー
 オ ー ク マ
 大 阪 機 工
 (株) 岡本工作機械製作所
 (株) カワイエンジニアリング
 (株) 神崎高級工機製作所
 (株) 北川鉄工所
 キ タ ム ラ 機 械
 (株) 北 村 製 作 所
 キ ャ ム タ ス
 黒 田 精 工
 コ マ ツ N T C
 (株) C & G システムズ
 (株) ジェイテクト
 (株) シギヤ精機製作所
 新 日 本 工 機
 住友電工ハードメタル(株)
 (株) ソ デ ィ ッ ク

大 昭 和 精 機
 (株) 太 陽 工 機
 高 松 機 械 工 業
 (株) 滝 澤 鉄 工 所
 (株) ツ ガ ミ
 津 田 駒 工 業
 (株) 東 京 精 密
 東 芝 機 械
 東 洋 精 機 工 業
 (株) ナガセインテグレックス
 中 村 留 精 密 工 業
 (株) 日 研 工 作 所
 (株) 日 進 製 作 所
 ハ イ デ ン ハ イ ン
 浜 井 産 業
 日 立 ツ ー ル
 フ ァ ナ ッ ク
 富 士 機 械 製 造
 プ ラ ザ ー 工 業
 豊 和 工 業
 牧 野 フ ラ イ ス 精 機
 (株) 牧野フライス製作所
 (株) 松浦機械製作所
 三 井 精 機 工 業
 (株) ミ ツ ト ヨ
 三 菱 重 工 業
 三 菱 電 機
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株) 森精機製作所
 安 田 工 業
 ヤ マ ザ キ マ ザ ッ ク
 吉 川 鐵 工

【リース業(16社)】

N T T ファイナンス(株)
 共 友 リ ー ス
 近 畿 総 合 リ ー ス
 興 銀 リ ー ス
 首 都 圏 リ ー ス
 昭 和 リ ー ス
 J A 三 井 リ ー ス
 住信・パナソニックフィナンシャルサービス(株)
 東 銀 リ ー ス
 東 芝 ファイナンス(株)
 日 本 機 械 リ ー ス 販 売
 日 本 G E
 日 立 キ ャ ピ タ ル
 三 井 住 友 ファイナンス&リース(株)
 三 菱 電 機 クレジット(株)
 三 菱 U F J リ ー ス